

東京工業大学

公文書室だより

No. 1 (2016年3月31日発行)



2015年4月1日

「国立公文書館等」の指定を受けました

本学の重要な文書類を保存・公開し、温故知新の場を提供します。過去の棋譜を Deep learning によって読みこなし、頂点に立った Google の AlphaGo を思い浮かべ、温かく見守ってください。

公文書室長 広瀬茂久

「東工大に公文書室？それは何だ？」と言われそうですが、私たちが未来に向かって力強く歩み続けるためには、なくてはならないものです。私たちを突き動かすのはもちろん“情熱”ですが、情熱を冷めにくくしてくれ（ときとして沸騰させてくれ）るのが、私たちが所属する組織の伝統と歴史です。

私が本学に入学した時に、「東工大の研究室に夜遅くまで灯かりが点いている限り、日本は大丈夫」といわれ、心動かされたのを覚えています（今では“夜遅くまで”はご法度かもしれませんが、メリハリは必要でしょう）。博士課程を終えて、米国の Vanderbilt 大学生物化学教室、そして筑波大学応用生物化学系を経て、10年ぶりに本学に戻ってきた時に、当時ほとんど手付かずだった細胞膜上の受容体(アンテナ分子)を研究する決心をしましたが、この時は、「かつて、八木式アンテナで有名な八木秀次が本学の学長だったし、それ以降も東工大はアンテナの研究で有名だから、『細胞の世界のアンテナの研究』で世界を驚かせるのもいいだろう」と、少し大げさかも知れませんが、難題に挑戦してやろうという意欲が湧いてきました。伝統と歴史は私にとっては意欲を保温しておく大事な魔法ビンです。

妙な書き出しになりましたが、これも偏に、この便りに目をとめて下さった方の脳裏に最初に浮かぶのは、冒頭の疑問とそれに答えようとしている「室長ってどんな人？」という興味だろうと推測し、先ずそれらに焦点を当てた話をした上で、「公文書管理法」や「特定歴史公文書等」、「国立公文書館等」という具体的な話につなげたいと思ったからです。

妙な話を続けますが、「時間よ止まれ」と願ったことはありませんか。それは難しいのですが、時間を結晶化し、見かけ上止めたように見せることは可能な気がします。化石や凍結標本や写真などはそれぞれの時代を流れていた時間を“結晶化”したものと見なすことができます。多くの人が家族写真を大切にするのは、時間と共に流れ去ってしまう掛け替えのない日常を記録に留めたいからで、時

間を写真という形に結晶化しているとも言えるでしょう。その結晶が私たちの生活を豊かにしてくれています。日々作成されている文書類も適切な保管手段が講じられれば、作成時の時間を結晶化したものと見なすことができます。時間の結晶と思えば、文書類の中から重要なものを選んで保存し、活用していくのは、“世界有数の理工系総合大学”であり続けるためには大切なことではないでしょうか。

国立大学法人で作成される文書類は、「法人文書」として一定期間保存された後に、多くは廃棄されますが、歴史的文化的に重要なものは公文書室に移管され「特定歴史公文書等」となります。これらは広く一般に公開し、種々の角度から読み解いてもらうことになりませんが、公文書室としても独自の視点で読み解いていきます。これまでに「とっておきメモ帳」(No. 1~8)、「発掘！東工大の研究と社会貢献」(No. 1~4)、「今月の一枚」(2015年10月~)などを発行・掲示していますので、Web 頁あるいは百年記念館 1 階 (愛称：T-POT^{tea_pot})、本館 3 階奥 (下図) でご覧下さい。



公文書室の入口 (本館 3F, 337 号室)

このような活動を通して、皆さんの心の魔法ビンにお湯を注ぎたいと願っています。お節介をご容赦の上、ご支援ご協力をお願いします。

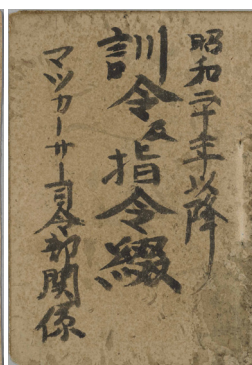
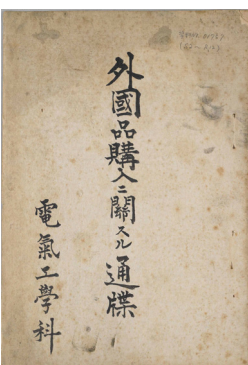
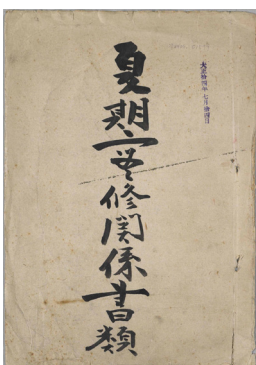
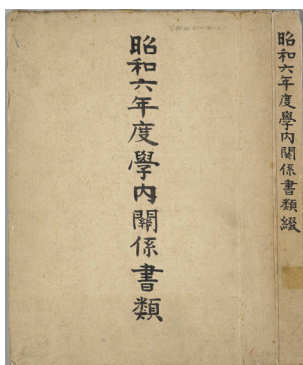
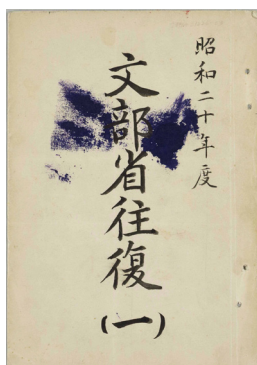
公文書室の生い立ち・位置づけ・役割

これらについては、既に東工大クロニクル (No. 488, '13; No. 500, '14)、大阪大学アーカイブズニュースレター (No. 5, '15)、及び国立公文書館アーカイブズ (No. 58, 2015) に掲載済みです。大まかには、公文書の統一的な管理・保存・利用のルールを定めた「公文書管理法」に基づいて、本学の公文書(法人文書 & 特定歴史公文書等)のうち、後者を「国立公文書館」相当施設として保存・公開することにより、国民の共有の知的資源として利用されていくこととなります。ご活用ください。

平成 27 年度（2015）に受け入れた特定歴史公文書のリスト

法人文書ファイル名	作成・取得者
平成 20 年度～平成 21 年度 130 年統括本部会合	130 年事業事務室 事業運営 GP
清華大学との合同プログラム 平成 16 年度	学務部留学生課企画交流 係
赴日予備教育 2004 年度	研究協力部国際事業課 国際事業第 2 係
赴日予備教育 2003 年度	研究協力部国際事業課 国際事業第 2 係
大正 6 年 9 月以降理事会 重要書類	研究推進部研究企画課 総務・管理 GP
VBL・INC 運営委員会 (平成 7 年度～ 16 年度)	研究協力部研究協力課 産学官連携掛
平成 16 年度学校基本調査	総務部評価・広報課 広報・社会連携 GP
学内関係書類綴 昭和 6 年度	学生課
学内関係書類綴 昭和 7 年度	学生課
学内関係書類綴 昭和 8 年度	学生課
学内関係書類綴 昭和 9 年度	学生課
学内関係書類綴 昭和 10 年度	学生課
学内関係書類綴 昭和 11 年度	学生課
学内関係書類綴 昭和 12 年度	学生課
学内関係書類綴 昭和 13 年度	学生課
学内関係書類綴 乙昭和 15 年度	学生部学生掛
学内関係 教務課 昭和 15 年度	学生部学生掛
学内関係書類 昭和 16 年度	学生部教務掛
学内関係書類綴 昭和 17 年度	学生部教務掛
学内関係書類綴 昭和 18 年度	学生部教務掛
学内関係書類綴 昭和 19 年度	学生部教務掛
学内関係 昭和 20 年度	学生部教務掛

法人文書ファイル名	作成・取得者
学内関係 昭和 21 年度	学生部教務掛
学内関係 昭和 22 年度	学生部教務掛
文部省往復文書綴 昭和 18 年度 丙	学生部教務掛
文部省往復文書綴 昭和 19 年度 甲	学生部
文部省往復文書綴 昭和 20 年度 (一)	学生部教務掛
文部省往復文書綴 昭和 21 年度	学生部教務掛
諸官公署・他向往復文書綴 昭和 19 年度	学生部教務掛
教務課他向関係書類綴 昭和 27 年度	教務部教務課教務掛
昭和二十年以降 訓令及指令 綴 マッカーサー指令部関係	電気化学科
昭和二十年以降 雑書通牒 綴 電気化学科	電気化学科
教務関係資料 昭和 20 年度	学生部教務掛
教授会議議事要録 昭和 17.1- 昭和 21.2 (二)	総務部 学務掛
教授会議議事要録 昭和 21.3- 昭和 25.2	総務部 学務掛
運営委員会議事要録 昭和 23- 昭和 27	[東京工業大学]
官制改正資料 昭和 19 年	[東京工業大学]
官制改正 生産工業研究所 窯業研究所 昭和 16 年	生産工業研究所 窯業研究所
雑 昭和 21-22	[東京工業大学]
東京工業大学光亜會海外旅行 會記録 昭和 6 年実施	学生課
夏期実修関係書類 大正 14 年 7 月	東京高等工業学校教務掛
外国品購入ニ関スル通牒	電気工学科



特別展示『ノート考—古いノートに学ぶ教育の本質』を開催しました

2015年10月10日(土)～10月23日(金), 百年記念館1階

今話題の「明治産業遺産」が実際に稼動していた時代に、本学で学んだ人たちのノートが寄贈されました。教科書がなく、Google先生もいなかった時代のノートから、現代では忘れられがちな学びの基本がみえてきます。製本し、自慢したくなるような良いノートが作れること—それが名門校の証だったのです。自分の理解を見える形にする。これが現代のActive Learningに通じる学びの基本ではないかと古いノートは語りかけているようでした。

明治期の産業・工業教育のさきがけとして蔵前の地に設置された東京職工学校は、当初教科書と板書は英語が多用され、秋入学でした。日本の近代化を推進することになる指導的立場の人材を多く世に送り出しました。今回は、そんな日本の産業を興すべく設立された本学の前身校で学んだ3人の学生のノートを展示しました。



いきさつ

博物館(1987)が大きくなり、その中に資史料館(2013)と公文書室(2015)が出来たことを記念するイベントとして、卒業生から寄贈されていた明治・大正時代のノートを展示し、当時の授業の様子や学生の勉強の仕方を想像してもらう特別展を開催することになりました。現在本学で進行中の教育改革について考えるよい機会にもなったのではないのでしょうか。

ノートと持ち主の素顔など

尾崎甚四郎(電気科電気機械分科, 明治42年卒): 電気機械分野における専門科目のノートは少ないが、共通科目としての物理と物理実習のノートが網羅的に残されており、1年次での基礎の習得の上に、2年次の実験が組み込まれていることが読み取れます。これらのノートは尾崎の孫の小林由紀子が本学名誉教授(八木幸二)の妻(ゆり)と知り合いだった関係で本学の博物館に寄贈の打診があったものです。尾崎の長女(93歳, 岡山県在住, 小林由紀子の母)が健在で、携帯・email・DVDなどを使いこなしているという余話には驚くとともに、蔵前精神が子供にも受け継がれていたのだと感心しました。この長女の話によれば、「父は、鉄道省に勤務した後、日本砂鉄興業の社長(岡山の人)

に乞われて副社長となったが、残念ながら結核で亡くなった(社葬)」そうです。

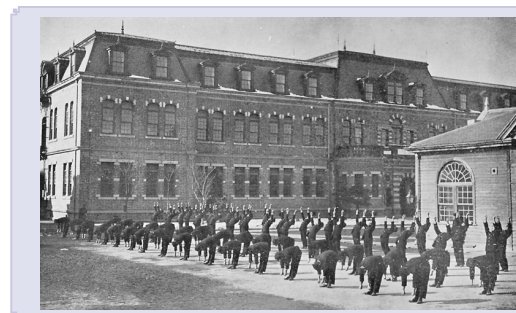
仁木源吉(機械科, 明治44年卒, 蔵前工業会誌No. 838参照): 仁木が在籍していた機械科は最も生徒数が多い学科(明治43年11月の記録によると、機械科の1～3年生が181名, 電気機械分科が155名, 応用化学科が72名)で、機械を扱える技術者の養成が急務であったことが分かります。

ノートは、関連する科目ごとにまとめて製本されており、専門科目に関するものが多いのが特徴です。機械科長であった阪田貞一や応用力学・発動機を担当した浅川権八などの講義内容が克明に記録されています。機械の構造や動作順序などが精緻に図解されており、学びにかけた時間と情熱に圧倒されます。

植松軍三(建築科, 大正5年卒): 植松が本校に入学したのは大正2(1913)年で、建築科設置以来学科長を務めた滋賀重列(イリノイ大卒, 明治35年に竣工した本校舎を設計)や前田松韻(関東都督府土木課技師として大連の都市建設に貢献)、橘節男(後に学科長となり蔵前から大岡山へ移転する際のキャンパス計画を指揮)等による専門科目に多くの時間が割かれていました。物理・数学・語学・修身等の基礎科目に加え、3年次には実学ともいべき工業経済・簿記・衛生を学んでいます。植松ノートの建築学科の平井聖教授、後任の藤岡洋保教授を経て、博物館に寄贈されました。

企画者の心象ノート

入学し 科学技術の世界の入口に立つ
情熱はあるが 教科書はない
道案内役である先生の話に耳を傾け 開拓者を目指す
聞いただけでは すぐ忘れる
メモしても断片的にしか理解できない
文章にして初めて 真に理解できる
ノートにまとめ 体系化する
蔵前の香りがする「教科書(Concept Map)」ができる
自分の理解が 眼下に広がる風景のように 見えてくる
もう巣立ちの準備は十分だ
教科書に代わるノート作り
その経験が蔵前人を作り
その内容が 海図として 卒業後の大航海を支えた



出典・東京高等工業学校二十五周年史
浅草(蔵前)にあった校舎前
徒手体操をする生徒たち

M39 (1906)

公文書室 業務日誌（抄）

日時			業務内容
年	月	日	
平成 27 (2015)	4	1	公文書室開室
	5	19	～ 10月20日 ◆ 各部局と公文書の移管について協議（約5ヶ月間）
	6	1	補佐員2名採用
		8	～9日 ◆ 全国公文書館長会議出席
	7	16	役員会で 保存期間が満了した法人文書の公文書室への移管について説明
		21	第2回関東地区国立大学文書館情報交換会開催（当番館）
		22	総務課すずかけ台倉庫視察
		22	～24日 ◆ 公文書管理研修Ⅱ受講
	10	1	第1回 博物館資史料等審査部会
		10	～23日 ◆ 特別展示 2015年『ノート考—古いノートに学ぶ教育の本質』開催
	11	20	総務課すずかけ台倉庫から百年記念館関係資料を搬出
		30	韓国国立 慶北大学文書館から5名見学
	12	15	内閣府による国立公文書館等の現地調査等の実施
		25	広報・社会連携課倉庫から広報イベント写真など搬出
平成 28 (2016)	1	8	新潟大学学術情報部長来訪（体制等の調査及び見学）
		13	第2回 博物館資史料等審査部会（メール審議）
	3	4	ガイドライン改正に伴い公文書室利用規程一部改正（役員会承認）

寄贈資料一覧 & 資史料館からのお知らせ

◆ 卒業生の方から資料を寄贈いただきました（2015年4月から2016年3月受領分）。

寄贈者	資料名
高瀬昭三	内田俊一講演テープ
伊藤高昭	奥沢物語
椎名利	原子炉研高島研究室のクロニクル
松浦道隆	東京工業大学高津寮々誌他
井関孝善	河嶋千尋先生原稿他
蔵前修工会	アルバム他
米山喜久治	工業調査部資料控第二分冊他
宮崎俊吉	Muscat (1954.2) 他
高木幹雄 (高木左喜雄 代理)	東京高等工業 卒業記念 大正5年7月他

寄贈者	資料名
佐久間精一	竹内時男の著書他
大即信明	附属高校 125周年 PPT ファイル他
高岡昭生	加藤六美 元学長の写真他
明島高司	教官の在職年齢に関する懇談会資料他
蔵前旅行会	吟行記録 (DVD)
松尾孝	若手研究者・技術者へのメッセージ
藤井理行	東京工業大学パタゴニア遠征隊計画書他
宮崎理彦	東工大の反戦・学生運動のスライド写真
須山英三	大岡山キャンパス写真 (昭和25～30頃)

◆ 公文書室入口（本館3階奥）にパンフレット棚を設置し、「発掘！東工大の研究と社会貢献」、「資史料館 とっておきメモ帳」をこちらでも 配布できるようになりました。百年記念館1階と合わせてご利用下さい。

東京工業大学公文書室だより 第1号 2016年3月31日発行

編集・発行 東京工業大学博物館資史料館部門公文書室

152-8550 東京都目黒区大岡山 2-12-1, E3-12 TEL 03-5734-3347

E-mail centshiryou@jim.titech.ac.jp URL <http://www.cent.titech.ac.jp/indexArchives.html>